

平成 29 年 3 月 13 日

総合技術研究会 2017 東京大学 参加報告書

ものづくり系班 中川秀則

総合技術研究会に参加・発表をしたので報告します。

1. 目的

この研究会は、それぞれの機関において技術系職員が携わっている広範囲な技術業務ならびにそれに関わる専門的知識を発表しあって、機関や専門領域を超えて意見交換を行う大変重要なとし、通常の学会とは異なり、日常業務から生まれた創意工夫や失敗事例なども重視し、参加者の技術交流と技術向上、さらにネットワークの構築を図ることを目的としている。

2. 開催日時

平成 29 年 3 月 8 日から 3 月 10 日

3. プログラム

3 月 8 日 技術交流会

3 月 9 日

シンポジウム 「技術研究会の歴史と今後について」

特別講演 「技術の粋を集めて挑む重力波の観測－KAGURA プロジェクト－」

ノーベル物理学賞受賞 東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章 特別荣誉教授

口頭発表 セッション 1

ポスター発表

3 月 10 日

口頭発表 セッション 2～セッション 6

4. 発表概要

題目：小ネジの締め付け力に関する教材開発 科学研究費補助金「奨励研究」（課題番号 15H00235）

中学卒業後、間もない学生が工学基礎を学ぶ「ネジの正しい締め方」という実習型授業がある。この授業ではネジ締め作業のポイントとしてドライバーを垂直に押し込む力が重要であると指導している。しかし学生の理解をより促すためには定性的ではなく定量的に教授すべきである。そこで本研究では小ネジの締結の際、ネジにかかる力（垂直押し込み力、締め付けトルク、締結力）を数値化し示す装置を開発した。

持ち時間は発表 15 分・質疑 5 分の計 20 分であった。

5. 所感

総合技術研究会は京都大学以来 2 度目の参加となったが、東京大学ということか過去最大規模での開催となり、参加者は全国の技術職員 900 名を超えていた。(全国技術職員数 5000 名くらいらしい)

開催分野は 12 分野あり、日常業務から主な関連分野は機械工作分野、装置関係分野および実験実習分野の三分野であり、関心のある発表も多かったが、体は一つなので可能な限り聴講した。私の発表した実験実習分野はやはり発表件数も多く、他高専の発表もやはりこの分野が多く見受けられた。

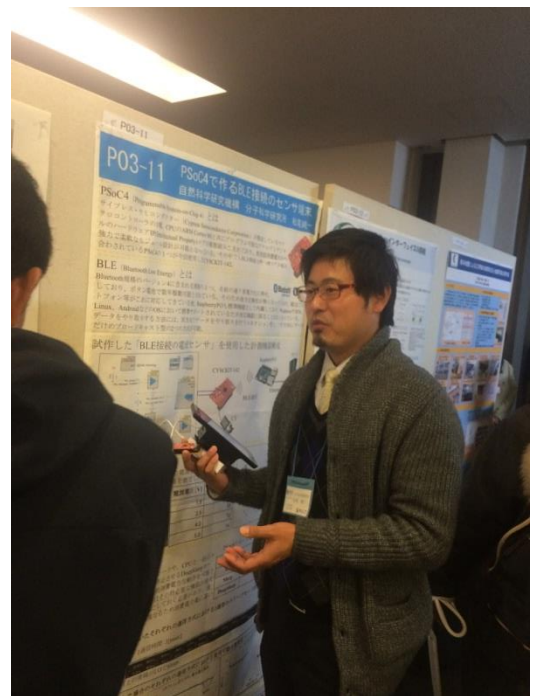
ポスター発表は会場が狭く通行すらままならない状況で、思ったようには見て回ることが難しかった。

発表に関しては 9 日の第一セッションの先頭で、これといったトラブルもなく行い、質疑応答も関心を持っていただけたのか、活発に行うことができた。質疑の時間が不足しセッション終了後まで出向いていただき質疑をいただくことができた。

この総合技術発表会は若手も多く参加しており、また大学機関の技術職員の業務も参考になることなど多く有意義な時間となるため、今後も機会があれば参加を検討することは大切であると考えられる。情報交換の場としては規模が大きすぎるためコミュニケーションが難しく、高専限定の木更津の方が有益であると思う。



口頭発表



ポスター発表